

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度技術情報第14号（イチゴのハダニ類）について（送付）

イチゴのハダニ類について下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>）にも掲載しています。



## 令和5年度 技術情報第14号

1 農作物名 イチゴ

2 病害虫名 ハダニ類

### 3 発生状況

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

### 4 情報の根拠

(1) 10月の発生ほ場率は82%（平年29%）と高かった（図1）。過去10年では最も高く、中発生のほ場も認められた（表1）。

(2) 九州南部地方の向こう1か月の気象予報（10月26日鹿児島地方気象台発表）によると、平均気温は平年並か高いと予想されており、ハダニ類の発生に好適な条件が続く。

### 5 防除上注意すべき事項

(1) 寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。

(2) 薬剤は防除効果を高めるため、下葉かきを行い、葉裏まで散布ムラのないように丁寧に散布する。

(3) 令和4年に実施したナミハダニの殺卵効果及び殺虫効果試験（成・幼虫）では、殺卵率及び殺虫率の低い薬剤が認められ（表2）、薬剤によっては感受性の低下が懸念された。

(4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

(5) カブリダニ類等の天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するので、天敵への影響の少ない薬剤で防除する。また、放飼後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(6) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。

## 6 調査結果

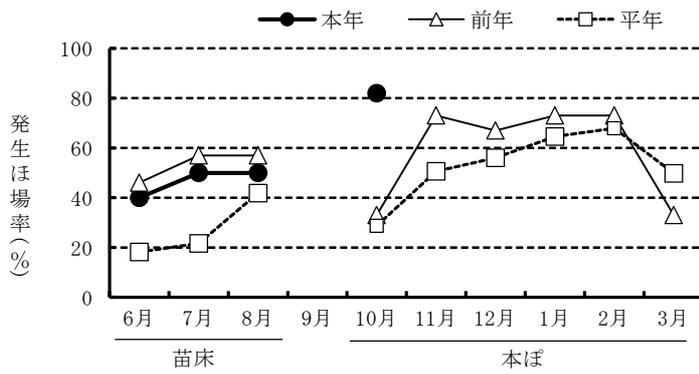


図1 ハダニ類の発生ほ場率の推移

表1 ハダニ類の発生程度別ほ場数

調査地点	ほ場数	発生程度				
		甚	多	中	少	無
日置市伊集院町	4				2	2
志布志市有明町	4				4	
志布志市松山町	3			1		2

注) 発生程度(寄生株率) 甚: 96%以上, 多: 71~95%, 中: 41~70%, 少: 1~40%

表2 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の殺卵・殺虫効果(令和4年)

薬剤名	薬剤		ミツバチへの影響 <sup>3)</sup>	IRACコード <sup>4)</sup>	希釈倍数	殺虫効果(殺卵率, 殺虫率) <sup>5)</sup>					
	天敵への影響 <sup>2)</sup>					日置市伊集院町 採集個体群 <sup>6)</sup>			志布志市有明町 採集個体群 <sup>7)</sup>		
	ミコガブリタニ	チリカブリタニ				卵	ふ化幼虫	成虫	卵	ふ化幼虫	成虫
カネマイトFL	◎	◎	◎	20B	1,000	91	94	100	71	89	97
コテツFL	×	×	10日	13	2,000	98	98	98	98	94	87
スターマイトFL	◎	◎	1日	25A	2,000	16	36	— <sup>8)</sup>	13	59	—
ダニオーテFL <sup>9)</sup>	◎	◎	◎	33	2,000	100	100	100	100	100	100
ダニコングFL	◎	◎	◎	25B	3,000	22	93	82	96	89	89
ダニサラバFL	◎	◎	1日	25A	1,000	14	15	—	17	19	—
ダブルシューター <sup>10)</sup>	×	—	2日	-, 5	1,000	24	95	98	15	89	88

1) 試験は令和4年6月~10月に実施した

2) 薬剤の天敵への影響は, アリスタライフサイエンス株式会社 影響表 2022年10月修正 第32版及び農薬製造メーカーHPより ◎: 影響が小さい ×: 強い影響あり

3) 薬剤のミツバチへの影響は, 農薬ハンドブック2021年版(一般社団法人 日本植物防疫協会)及び農薬製造メーカーHP等より ◎: 影響なし, ほとんど影響なし 日数記載: 記載の日数以上開けてから導入が可能。 ※影響のない農薬でも, 散布時は鉢を単箱に回収し, 薬液が乾いてから活動させる

4) IRAC International作用機制作業部作成2022年6月 第10.3版より

5) 殺虫効果は(無処理生存率-処理区生存率)/無処理生存率×100で算出し, 3反復の平均値

6~7) 収穫末期の本ぼから採集

8) —: 試験を実施していない

9) 銅を含む薬剤と混用及び近接散布で効果が低下する恐れがある

10) 有効成分に気門封鎖剤を含む